みんなの図書館を

欲求５段階説で有名な心理学者マズローは、人は生理的欲求の次に精神的欲求、つまりこころの豊かさを求めるようになると定義しました。人間にはもっと知りたいという貪欲さがあります。その欲求が人間に多くの創造をさせてきたと思います。

「知らないことを想像はできない。想像できないものを創造はできない」と、私は口癖のように常日頃言い続けています。創り出すための創造がまずは先だと思っているのです。

■公約の意図

私の公約に「図書館を中心とした複合文化施設の建設」があります。その意図として、合併時の約束が念頭にあることに相違はありません。ただ、それは理由の一つに過ぎません。加えて、にかほ市には、視覚的な「合併の象徴」がない、つまり一体感を醸成するための「強力な物的シンボル」がないこともずっと気になっていました。しかし、それも理由の一つに過ぎません。

私ごとですが、子どもの頃の私は本が好きではありませんでした。おとなしく座って本を読むなんて技は持ち合わせていませんでした。そんな私に本って素晴らしいなと思わせてくれたのは、高校生の時に何となく読んだ夏目漱石の「こころ」でした。さすが文豪です。夏目漱石が私に本の奥深さを教えてくれたと勝手に格好よく思ったくらいです。それ以来、私のカバンの中には必ず本がありますし、訪れた先の図書館や本屋さんに必ず立ち寄るようになりました。並べられている本を見るだけで幸せな気持ちになるのです。

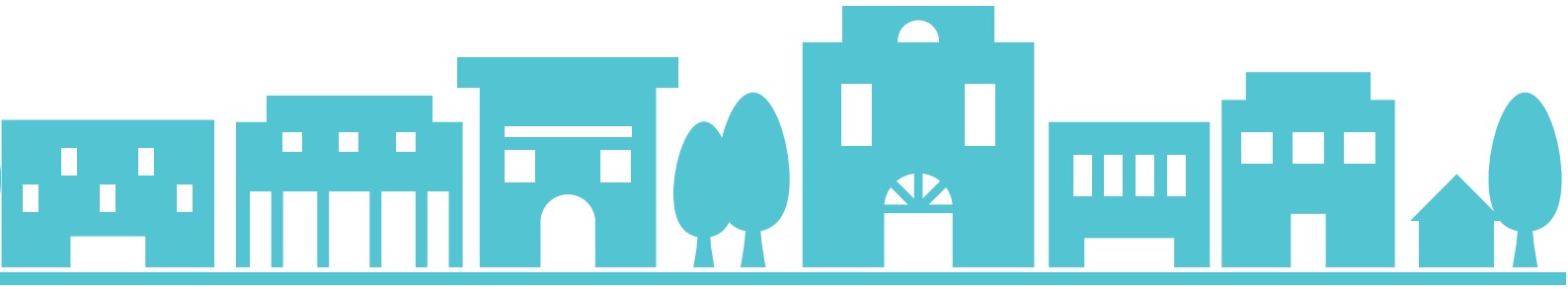
■人が交わる空間

図書館というものの機能や役割は以前とは違ってきていると思っています。今回は概念的な話はしませんが、一つだけ「図書館は民主主義の砦（とりで）」だということは述べておきます。

当市には、金浦に図書館こぴあが、仁賀保と象潟には分館がそれぞれあります。確かに、本を貸し出すという役割はそれで果されているかもしれません。が、それで市民のニーズが満たされているとは到底思えません。一番残念なのは、いずれの施設も狭小で子供からお年寄りまで多くの人がいつでも訪れて楽しめる場所になっていないことです。

行政施設の中で、だれでも自らの意思で積極的に足を運ぶのは、圧倒的に図書館だと私は思っています。世代を超えた不特定多数の人々が気軽に利用できる多機能な図書館は、子どもたちだけでなく、若者からお年寄り、さらには障がいのある人までのあらゆる人たちが集う場所となり、そこに一つのコミュニティを創り出してくれるはずです。そんな図書館を想像しただけで私はうれしくなります。みなさんどう思いますか…。

最後に、10月13日に放映されたＮＨＫスペシャル「ＡＩに聞いてみた…」で報じられた内容を紹介します。

ＮＨＫが、お年寄り約41万人への健康寿命調査をＡＩに分析させたところ、健康寿命の高い人ほど圧倒的に「本や雑誌を読む習慣がある」ということが判明しました。学術調査ではありませんが、私はすごく納得しました。読書と健康推進事業に密接な関係があることに驚かされました。

にかほ市長　市川雄次